

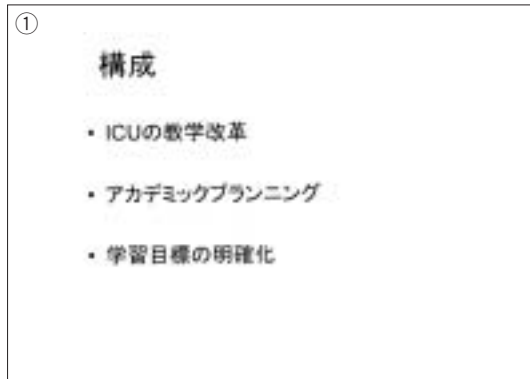
カリキュラム改革と学習目標の明示 ～ICUの事例から～

日比谷 潤子
(国際基督教大学 学務副学長)

ご紹介いただきました日比谷潤子です。よろしくお願いいたします。

私どもは、平成20年4月から教学改革をしましたが、それを1つの事例としてカリキュラム改革と学習目標の明示について、具体的な例をあげてお話しさせていただきます。全体の構成を最初に申し上げておきますと、教学改革の全体像について詳しくお話しすることは到底、時間の関係でできませんので、枠組みということで、今回の改革で何をしたのか、という骨子をまずお話しいたします。

新しい体制になったために、非常に重要になってきた考え方の1つとして、アカデミックプランニングというものがあります。これが何かということをお話ししたいと思います。さらに、アカデミックプランニングを支える組織を新設しましたので、それについても簡単にご紹介いたします。最後に、これが主要なテーマだと思いますけれども、その中でどのように学習目標を明確化していくかという試みについてご説明いたします(図1)。



1. ICUの教学改革

教学改革につきましては、いろいろなところで取り上げていただいていますので、ご承知の方々も多いと存じますが、ごく簡単にご説明いたします。これまでICUには、図2にありますように6つの学科がありました。入学する前に、第1志望〇〇学科、第2志望〇〇学科と決め、そして試験を受けるなり、あるいは特別入試、推薦入試、どの入口を通して入る場合にも、第1志望、第2志望の学科を決めて、試験や様々な考査の結果、第1志望で合格したとか、第2志望で合格したというような形で入っていました。従って、6つの学科の間に線を引いてあ

りますけれども、ちょっとした壁があったわけです。

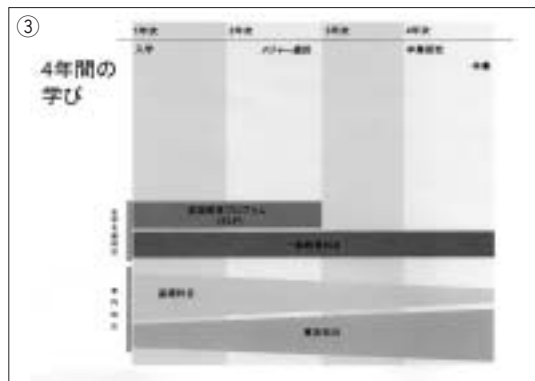
ただ、私どもは元々が教養学部1学部の大学ですから、従来から学科間の壁はかなり低かったのです。他学科の授業を取るために何か特別なことをしなければいけない、というようなことは一切ありませんでした。今日、打ち合わせの時に話題

になっていたのですが、大きい大学では、コースの概要が書いてあるものも、他学部のものなかなか見られないということですが、それは自由でした。それをさらに、低いけれども存在していた壁はすべて取り払って、入学前に志望の学科なり、志望の分野なりを、第1はこれ、第2はこれと示すことはやめたのです。

現在のところ、入学後に31のメジャー(専修分野)を用意しています。この中のいずれかを選び、最終的にはそのメジャーを専攻し、卒業していく体制に変わりました。具体的なメジャーについては、本日の話にはあまり関係ありませんので、字が小さくて、ご覧になりにくいと思いますけれども、図2をご覧ください。

ICUの初年次教育に当たるものは、次頁図3の全学共通科目の上にある英語教育プログラムです。川島先生のお話にあったカテゴリーで考えると、スタディ・スキル系に分類されることになると思います。1年次、2年次で同じ太さで両方にまたがっていますが、大半は1年次に終わります。この特徴は、スタディ・スキル系の初年次教育なんですけれども、それを英語で行うところにあるかと思っています。それから、一般教育科目も、これは1年から4年まで楔型などと言っていますが、いつ取ってもよい科目です。その他に専門科目があります。この専門科目に、先ほど申しました31のメジャー、それぞれに基礎科目と専攻科目が用意されています。これらの科目は、構造化されておりますので、基礎科目にはすべて100番台の番号がついています。後で歴史学の例を具体的にあげてご説明しますが、歴史学ですと、ヒストリーの最初の3文字を取ってHISとついています。こ





のような分野を表すコードの次に、例えば101とか110といった数字がつき、基礎科目を表します。そして専攻科目では、中級レベルになると200番台、学部としては一番上のレベルになると300番台というようになります。

それで、1年次は、基礎科目の部分が相対的に見て、太くなっている

のがお分かりになるかと思います(図3)。1年生が入ってきた時にはまず、31の分野のうち、自分としてはこういう分野に興味があるというものに関する基礎科目を選択します。最初から関心のあった科目の基礎科目を取ってみて、なるほど自分はぜひこれをやりたい、ということになったら、基礎科目は2科目ほど、その分野で取ればよいことになっています。2科目取って、これでいくということになれば、私どもは3学期制ですが、1年次の最後の学期には専攻科目200番台の中で、一番下の科目を取ることもできるようになっています。

先ほど金子先生のご講演の中にも、入学する前には将来の希望が決まっておらず、入学していろいろな授業科目を取ってみて、将来を展望している学生が非常に多いというお話がありました。そうだとすると、これまでのように、入る前にこれを第1志望、これを第2志望というのはあまりよくないわけです。このようなシステムにした最大の理由は、様々な授業科目を取ってそれで将来の展望を考えたい、という学生たちの希望に最大限応えるようにすることがねらいでした。

また、制度として自分のメジャーを選択して大学に申請するのは、2年次の終わりです。「制度として」と言ったのは、心の中で決めるのはいつでも自由だからです。1年次に基礎科目を取って、あらかじめこれがやりたいと思っているものが、「もうこれでいくんだ」ということになれば、その人にとっては1年の時からそれが自分のメジャーということになります。ただ、申請するのは2年の終わりです。逆に多少の迷いがあって、あちこち探訪すること、探索することは奨励しています。とはいえ、そうやって見て回ったとしても、あまり遅くまで迷っていると卒業できませんから、2年の終わりまでには決めてくださいということで、この時期に設定しています。

それで、3年次は選択したメジャーをさらに深めていく時期です。4年次は全員必修の卒業研究があり、最終的には論文を提出して卒業していく。このような構

成になっています。

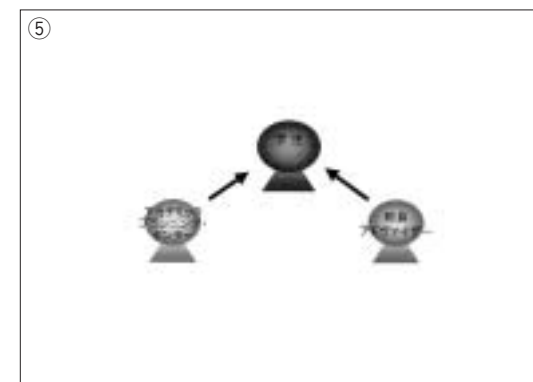
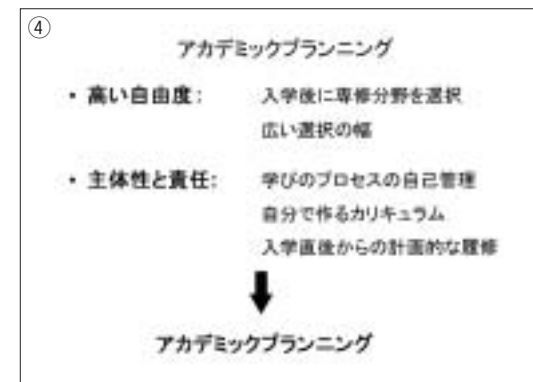
今ご説明した通り、現在のICUでは、入学後に専修分野を選択することになります。選択肢は非常に幅広く、これは31の中から選べるという意味で広いだけではなく、1つだけやるシングル・メジャーの他に、2つの分野を専修するダブル・メジャーも可能になりました。あるいは、ダブル・メジャーほどではないですが、2つ目の分野の重さを軽くするメジャー・マイナー(主専攻・副専攻)という選択も可能になりました。それから、シングル・メジャーの場合は、メジャーの科目は一定の単位数で卒業しますけれども、その分他に色々なことができるようになります。例えば、英語以外の外国語を初級から学び、上級までかなりみっちり勉強することができるようなプログラムも用意しましたし、あるいは、教職課程の取得や留学など、様々な選択の幅があります。そのような高い自由度があるのですが、そうすると、学生自身が4年間の学びのプロセスをきちんと管理していくことが非常に重要になってきます。

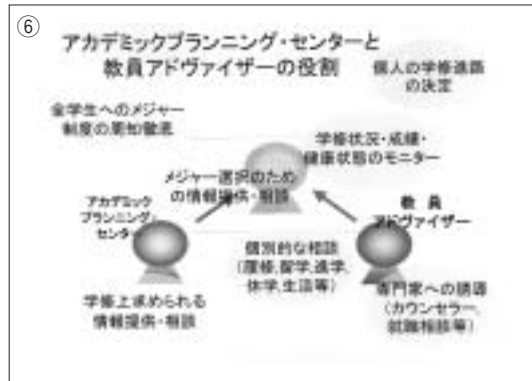
2. アカデミックプランニング

ものによっては、積み上げの学習が非常に重要という分野もありますので、先

ほど、あまりいつまでもふらふら迷ってはいけなないと申しました通り、入学直後から計画的に履修していくことが重要ですし、大学に入ってからだんだんと深めていけばいいことではありますが、自分が何をしたいのか、将来どういうことを展望しているのかということに合わせて、自分で作っていくカリキュラム、これを重視しています。そこで、そのことをアカデミックプランニング、自分でプランするのだ、というように表しているわけです(図4)。

私どもは、昭和28年の開学以来、教員アドヴァイザー制度をとってきました(図5)。これは、現在の言葉なら准教授、昔の言葉なら助教授以





上の専任教員が必ず1人ずつ、1人ひとりの学生にアドバイザーとして付く、というものです。

アドバイザーは何をするのかというと、履修の相談に応じる、これは各学期の履修登録をする時に、アドバイザーがサインをしないと登録ができない仕組みになっていて、

それぞれの学生の学習状況、GPA

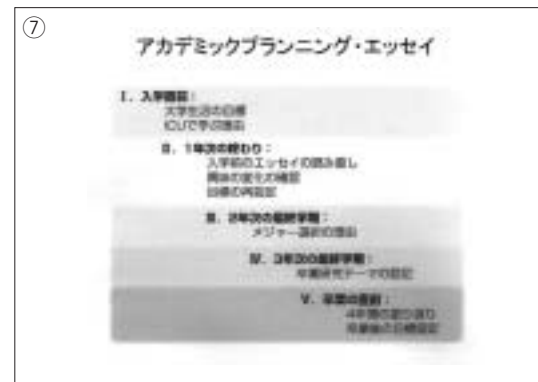
(Grade Point Average) で示される成績などをモニターしながら具体的な履修を決めていきます(図6)。それから、留学したいとか、場合によっては様々な理由で休学しなければいけないといったような、個別の相談にも応じてきました。必要があれば、カウンセラーのような専門家への誘導も行いました。

今までは大抵、学科の教員がアドバイザーになりましたから、カリキュラム上のことはよく分かっていたのですが、今度は入学者が何を専攻したいかということが分からない状態でアドバイザーとなります。もちろん、色々な履修指導は行いますし、教員もすべてのカリキュラムについてよく勉強することは重要ですが、特にメジャー選択までの道のりについて、そもそもメジャー制度とは何であるか、2年の終わりまでに選ばなければいけない、そのためには何をしなければいけないのか、というようなことに組織的に対応するための部署として、アカデミックプランニング・センターをつくりました。学生がここへ行くと、個々のメジャーではどのようなことを学ぶのか、といった情報が提供されるわけです。

もう1つ、このセンターで行っていることがあります。学生にアカデミックプランニング・エッセイというものを書かせています(図7)。大学にいる間に1人

でI~Vの5つ書きます。これは自分が何をしたいのか、ということをや文章化してみることで、自分の考えを整理し、またはっきりさせ、「自分で計画を立てるんだ」「プランニングするんだ」という意識を持たせることを第一の目的としています。

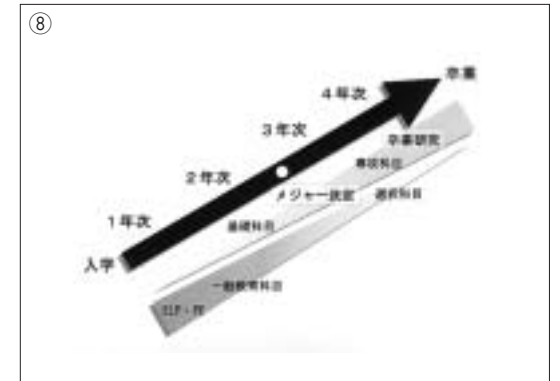
アカデミックプランニング・エッセイは常にセンターに保管されてい



ますので、実際にメジャーの選択について学生が質問に来た時には、保管されているものを取り出して見ることができます。今はまだ1年生しかいませんのでI番だけですが、学年が上がるにつれて、II番、III番と増えていきます。その学生のエッセイを見ながら、相談に乗るのです。

それから、このエッセイは教員アド

バイザーにもコピーが渡されます。アドバイザーも、それぞれの学生がどんなことを考えているのかを知ることができる仕組みです(図8)。



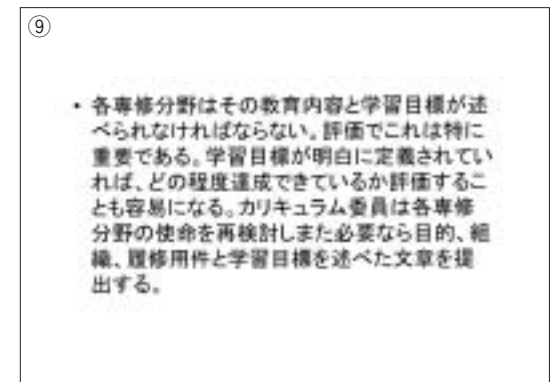
3. 学習目標の明確化

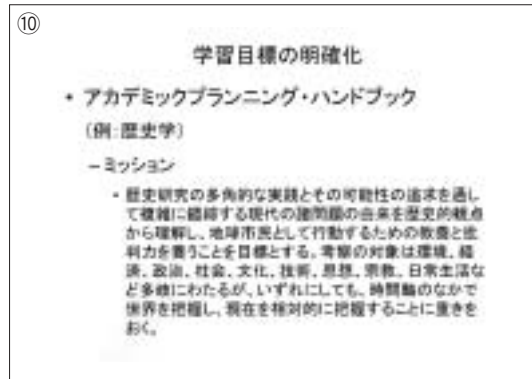
具体的なICUの教学改革は平成20年4月からですが、教学改革本部ができて準備を始めたのが平成18年の春でした。さらにその前年から、どのように改革しようかという議論があったのです。その段階では今のようなメジャー制度にするということはまだ決まっていなかった。

いずれにしても、現在の新しい制度の中で勉強できる31の分野が、もともとは6つの学科に分かれて存在していたので、専修分野という点では同じだったのですが、個々の専修分野ごとに教育内容と学習目標を明確に述べなければいけない、という議論が平成17年にはすでに起こっていました。それはなぜかというと、目標が明確に定義されていれば、学生がそれを達成できているかどうかを評価することも容易になります。目標が設定されていないと、達成度も測れません。

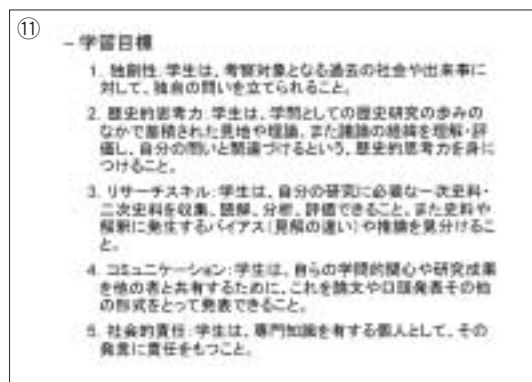
これを用意していた平成17年の段階では、個々の学科の中に分野ごとのカリキュラム委員というのがいました。

その委員が各専修分野の使命やミッションを再検討し、また「必要なら」と書いていますが、これが非常に必要で、目的や組織、履修要件と学習目標を述べたものを提出するということがありました(図9)。新しい制度になり、カリキュラム委員という名前がついた人はいなくなりました





が、アカデミックプランニング・センターができる時、各学科の情報をセンターが集めて、センターで学生に情報提供する時に使う、また冊子にして学生にも渡すということにしましたので、全31の分野がそれぞれのミッションと学習目標をつくり、それをまとめてハンドブックにしています。1つの例として、今日は歴史学の例をお見せしたいと思います(図10,11)。



ミッションを果たすために、学習目標としてどんなことがあるかという、歴史学では5つのことが設定されています。1つは独自の問いを立てられること、2つ目は歴史的思考力を身につけること。それから、

リサーチスキルはどのような分野でも大事なことだと思いますが、歴史学ですので、特に一次史料、二次史料を収集、読解、分析、評価できること、あるいはその中に発生するバイアスや推論を見分けること、といったリサーチスキルがあげられています。4番目は歴史学に限りませんが、コミュニケーションの能力。そして最後に、社会的責任ということが謳われています。

それでは、このような学習目標が具体的に個々の授業の中でどのように実現されようとしているのか、ということをご説明したいと思います。

これは(60ページ、資料1)実は学内webにあがっているシラバスの抜粋です。今年が改革初年度ですので、これは2007年度のもので、現在ではSS(社会科学のコード)は取れていますが、HIというのはヒストリーです。そして113は基礎科目、導入的な科目ということです。実際にはシラバスですから、もちろん評価基準も明示されていますし、それから私どもは3学期制で、11週が年に3回ありますので、週ごとに何をやるかということも全部書いてあります。

これはよくある誤解ですが、学外の方から「ICUは全部英語で授業する」ということをよく言われます。確かに最近できた国際教養学部ではそういうところもありますが、私どもはバイリンガルの大学なので授業は日本語で開講されている

ものと英語で開講されているものがあります。日本史の教員についても、この例にあげた教員は英語で開講していますが、日本語で日本史を開講している教員もいます。それは教授言語という形でEとかJというのがついて明記されています。

そこで113番というのを見ると、近代日本の歴史ということが書いてありますが、ここで具体的にこのコースの学習目標が何かということが示されています。1番から4番までは、歴史の授業としての学習目標で、下の1番から5番まではそれに加えて、リベラル・アーツで、リベラル・ラーニングというものを非常に重視していますが、もう少し汎用性の高い学習目標が示されています。

SSHI213(61ページ、資料2)ですが、現在は現代日本の歴史という科目になっています。実は科目の内容は変わりましたが、学習目標は先ほどとほとんど同じです。最後に300番台の上級科目(62ページ、資料3)は、セミナー形式の授業です。学習目標を見ると、先ほどとは少し違って、セミナー科目ですから、ペーパーを書くことがメインとなります。一番下にページ数も書いてありますが、もう少し違った書き方、また文献をかなり読みますので、批判的な読みをどういうふうにしていくかということが発展させるということが書かれています。

このような具合に、今お話ししたようなことが31の分野すべてについて用意されるまで、ようやくたどり着きました。大学として様々な分野を用意していますが、大学全体としての学習目標は何なのか、ということについては、これからの課題として考えていかなければいけないことかと思っています。

それでは、ありがとうございました。

資料 1

M. William Steele

SSHI113 HISTORY OF JAPAN III

COURSE DESCRIPTION:

A History of Modern Japan 1840s-1940s
Theme: Growing Up in Modern Japan

COURSE LEARNING GOALS:

1. To identify the major events, persons and ideas of the history of modern Japan.
2. To gain an appreciation of primary sources and demonstrate their significance to an understanding of historical problems.
3. To apply critical and analytical skills in dealing with historical problems.
4. To understand the influence of the past on contemporary events and problems.

In addition, this course has some general liberal learning goals. As a result of taking this course, students should be able :

1. To manage information, recognize significance, and synthesize facts, concepts and principles.
2. To understand and use organizing principles or key concepts in the social sciences.
3. To differentiate between facts, opinions and inferences.
4. To frame questions and develop problem solving skills.
5. To organize and communicate ideas clearly and concisely through both written and oral presentations.

資料 2

M. William Steele

SSHI213 HISTORY OF CONTEMPORARY JAPAN

COURSE DESCRIPTION:

War and Postwar Japan

According to Benedetto Croce, "all history is contemporary history." This year, 2007, marks the 62nd anniversary of the end of the Pacific War. This course will show how events of the past are very much alive in the present. The war is constantly in the news. We will explore the ways in which the events and experiences of wartime Japan have been remembered and used and re-used over the past 60-plus years in shaping domestic politics, international relations, and national identity.

COURSE LEARNING GOALS:

1. To identify the major events, persons and ideas of the history of contemporary Japan.
2. To gain an appreciation of primary sources and demonstrate their significance to an understanding of historical problems.
3. To apply critical and analytical skills in dealing with historical problems.
4. To understand the influence of the past on contemporary events and problems.

In addition, this course has some general liberal learning goals. As a result of taking this course, students should be able :

1. To manage information, recognize significance, and synthesize facts, concepts and principles.
2. To understand and use organizing principles or key concepts in the social sciences.
3. To differentiate between facts, opinions and inferences.
4. To frame questions and develop problem solving skills.
5. To organize and communicate ideas clearly and concisely through both written and oral presentations.

M. William Steele

SSH1313 ADVANCED SEMINAR IN JAPANESE HISTORY III

COURSE DESCRIPTION:

Theme: Liberal Arts in Japan

ICU is currently involved in a major program of academic reform. ICU was founded in 1953 and has been a pioneer in liberal arts education in Japan. The current reform plans seek to strengthen ICU's commitment to liberal arts and take advantage of recent developments in liberal arts education around the world. Other private and public universities in Japan are also carrying out reforms. This seminar deals with the history of liberal arts education in Japan. It begins with a look at Edo period education, the introduction Western educational ideals (and institutions) in the Meiji period, the development of a national(istic) educational system in the early 20th century and liberal challenges to that system in the 1920s, the period of so-called Taisho democracy. Education during the war years and immediate postwar reforms are examined including a review of the history of ICU itself. Finally the seminar deals with recent issues in Japanese higher education, including the revision of the Basic Law on Education in 2006.

COURSE LEARNING GOALS:

1. Become aware of recent trends in English language scholarship on Japan
2. Develop critical reading skills. This will involve reading, note-taking, and discussion of at least two books relating to this year's theme.
3. Develop research writing skills. This will involve the formulation of a problem, research and writing of an extended research report (15 pages).